

令和5年度  
事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	02	01	06	124270	花巻・遠野広域連携事業費		
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営		
	施策	02	機能的な組織運営と人材育成				
目的	交流人口の拡大を図るため、花巻・遠野の強みを生かした効果的な情報発信や広域観光を推進する。						
対象	花巻市・遠野市						
意図	2市の強みを生かして効率的・効果的に事業を実施している						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童・生徒パラスポーツ体験交流事業 407千円 両市の児童・生徒を対象とした専門指導による視覚障がい体験やパラスポーツ教室を実施</li> <li>○オンライン移住等プロモーションイベント開催事業 1,750千円 首都圏等の移住希望者を対象とした両市合同によるインターネットラジオを活用した情報発信及び移住ツアーを開催</li> <li>○花巻・遠野インバウンド誘客促進事業 1,257千円 今後の訪日外国人旅行者の増加を見込み、メディアを活用した両市の観光プロモーションを実施</li> <li>○花巻・遠野連携旅行商品造成支援事業 5,634千円 首都圏及び関西圏からの観光入込客数の増加を図るため、両市に宿泊する旅行商品を主催する事業者への支援を実施</li> </ul>						
市民参加の有無	対象外						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標			単位	区分	R04	R05	R06
1	インターネットラジオ再生回数		回	計画		1,000.00	
				実績		1,039.00	
2	インバウンド入込数		人	計画		90,468.00	
				実績		71,034.00	
3	花巻・遠野連携旅行商品造成数		本	計画		6.00	
				実績		7.00	
成果指標			単位	区分	R04	R05	R06
1	広域観光客（花巻・遠野・平泉）入込数（暦年）		万人	目標	486.10	500.00	
				実績	423.30	493.42	
2				目標			
				実績			
3				目標			
				実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		○	概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ引き下げられ、行動の制限がなくなったことから一定程度観光需要が回復し目標値並みの指標を達成できたと考えられる。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	遠野市との連携を模索する事業のため行政主導で行う必要がある。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	<input type="radio"/> 向上余地がある	遠野市と様々な事業について連携を推進することで、相乗効果を得ることができる。
	見直し余地がない	
	<input type="radio"/> 向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	遠野市と連携して各事業に取り組むことで、効率的に実施することが可能となる。
	<input type="radio"/> 事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	両市で応分の負担割合となっている。
	<input type="radio"/> 受益機会の見直し余地がある	
総合評価	<input type="radio"/> 費用負担の見直し余地がある	
	<input type="radio"/> 適正である	
	今年度の振り返り	新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ引き下げられ、行動制限がなくなったため、遠野市と連携し計画していた全ての事業を予定通りに実施することができたことにより、広域観光客入込数は増加傾向にある。
次年度に向けて	地域経営推進費の市町村事業の広域連携枠の新たな期間が始まった令和5年度において、計画していた事業全てを実施することができた。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ引き下げられ、行動制限がなくなった中で、早期に遠野市と打ち合わせを実施し、より効果的かつ効率的な令和7年度の事業展開を検討する必要がある。	

令和5年度  
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	02	01	06	124280	総合企画アドバイザー活用・連携事業費			
総合計画	分野	05	行政経営	政策	01 効率的・効果的な行政運営			
	施策	02	機能的な組織運営と人材育成					
目的	庁内外の課題解決や活性化のため、人的ネットワークやフットワークを有するアドバイザーと連携した取組を行う。							
対象	庁内、市内企業など							
意図	課題解決や活性化が図られる							
事業概要	○総合企画アドバイザー業務 594千円 総合企画アドバイザーによる助言や指導、情報提供、花巻産食材の販路拡大にかかる協議・現地調査、企業誘致に向けた企業訪問やマッチング支援等							
市民参画の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	R04	R05	R06	
1	総合企画アドバイザーの来市			回	計画	6.00	6.00	
					実績	1.00	2.00	
2					計画			
					実績			
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	R04	R05	R06	
1	課題解決の件数			件	目標	2.00	2.00	
					実績	2.00	3.00	
2					目標			
					実績			
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度	○	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
令和元年度に実施した花巻市内見学ツアーについては、中村勝彦アドバイザーの人的ネットワークを通じ花巻を知っていただく機会として同氏主催で行っており、コロナ禍の影響により、この間実施できない状況であったが、同氏との意見交換やアドバイスを通じ、企画の実施により花巻市のPRにつながった。また、同氏にアリオ川口で開催した「岩手県花巻市フェア」に従事いただくことにより、人的ネットワークを通じて、開催のPRや販路拡大の取り組みにつながったほか、年間を通じた打合せや情報連携を行ってきた結果、都内企業において同氏主催の花巻市フェアを実施し、花巻市産品の物販や食材PRにつながった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市政の課題解決や活性化の一助として、外部の視点を取り入れることを企図しているが、その具現化に向けて、市が主体的且つ協働して取り組む必要がある。
	○ 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	庁舎内や市内企業、団体への認知度の向上が不可欠である。
	○ 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の経費での実施であるため、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	○ どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	取り組む内容が限定されていないことから、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
総合評価	○ 適正である	
	今年度の振り返り	中村勝彦氏の人的ネットワークを活かし花巻市のPR活動として、令和元年度以降2回目となる花巻市内見学ツアーが5月に実施され、5名の参加があった。同ツアーは、佐藤ぶどう園や佐々長醸造、宮沢賢治記念館等、物販や観光資源に関する内容で実施された。そのほか8月に年度の中間打合せ及び企業訪問を実施した（エーデルワイン、石鳥谷道の駅等）。10月にアリオ川口で開催された「岩手県花巻市フェア」に従事いただき、同氏が組織する「遊クラブ（企業の役員等 会員数約200名）」への情報発信を行うほか販路拡大に向けた取組を行ったほか、3月には都内企業（様設計）において、同企業の食堂を運営する中央フードサービスと連携し、花巻市フェアを開催、物販（エーデルワインや漬物等）及び社内懇親会に花巻市産食材（白金豚や佐々長醸造の味つゆ等）を使用したPR事業を展開した。
	次年度に向けて	重点項目として、市内食品加工業や誘致企業等から要望がある「花巻市産品のPR・販路拡大」、観光ルートの開拓等に取り組みを展開するほか、花巻市と首都圏及び東海圏企業間のマッチングや企業訪問等を通じた動向把握に取り組む。また、10月に開催予定である花巻市企業立地懇談会への参加及びアリオ川口での「岩手県花巻市フェア」へ従事いただくほか、定例的な来市での打合せを行った上で、市内外の課題解決に向けた活動を推進する。